

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・形成的学校評価を行い、改善点をスピーディーに焦点化して一体となって取り組んだ結果が出た。 ・「生きる力を身につけ、自ら未来を拓く生徒の育成」には今後も継続して取り組んでいく必要がある。 ・学力向上の目標については、職員の意識を統一して取り組んでいく必要がある。
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	<p>「純美にしてファイトに富む学校」 ～生きる力を身につけ、自ら未来を拓く生徒の育成～</p>
----------	------------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①「対話の場面」を授業に取り入れた授業づくりによる学力向上 ②「自他の良さに気づき認め合える生徒の育成」に向けた道徳教育の充実 ③活力ある学校づくりのための生徒会活動の活性化
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・マイプランの計画、見直し、振り返りや各調査結果をもとにして授業展開の見直しを図っていく。 ・全職員で神埼プランの徹底を図る。	B	・校内研究で取り組んでいる道徳での「対話を重視した授業づくり」の「対話の場面」を各教科の授業の中に意図的に設定することを意識し全職員授業を行うことができている。また、全国調査から見えてきた課題に全職員で共有し、改善に取り組んでいく。	B	・コロナ禍もあり思ったような対話の場面を設定できないときもあった。学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師81% ・対話を場面を通して、自分の考えを上げたり、深めたりすることができていると答えた生徒は87%	B	・焦点化されみごとに達成されたと思う。 ・学校の実情が分かりにくいと感じることも否めないで、コロナ対策をとりながら保護者と一体となった取り組みをしてほしい。	学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳性アセスメント「HUMAN」の「生命の尊さ」、「相互理解・寛容」の一般的に望ましい道徳的心情を全国平均以上にする。	・「対話」を重視した道徳の授業を展開し、自他の良さに気づき認め合える授業を行う。 ・全職員で参観する道徳の研究授業、授業研究会を行う。	B	・「自他の良さに気づき認め合える生徒の育成」を研究主題として、「対話」を重視した道徳科の授業づくりに全職員で取り組むことができている。また、年3回の研究授業、授業研究会を実施し、東部教育事務所から講師招聘し、指導助言をいただいている。	B	・道徳性アセスメントHUMANの「生命の尊さ」について3年生は全国の傾向より望ましい方向にあり、1、2年生は全国と同じ傾向であった。「相互理解・寛容」について1年生は全国の傾向より望ましくない方向にあることがわかり、2、3年生については全国の傾向より望ましい方向にあった。	B	・心の教育に関して学年毎に評価が分かれているので、来年度はその部分に力を入れていただきたい。	研究主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校が楽しいと感じている生徒80%以上 ○Q-Uの侵害行為認知群を8%以下にする。また、非承認群を20%以下にする。	・生活実態アンケート(月1回)や教育相談を実施し、状況把握に努める。 ・全職員による情報交換を定期的に行い、全職員による共通理解のもと指導を行う。 ・Q-U等の結果を参考にしながら学級経営に取り組む。	B	・生活実態アンケートや教育相談を実施することができた。教育相談を充実したものにするために事前アンケートを行った。また、全職員による情報交換の場を定期的に設定することで共通理解のもと生徒指導にあたる事ができている。	A	・生活実態アンケートは月に1回、教育相談週間を年2回設定し実施した。 ・学校が楽しいと感じている生徒95% ・Q-Uの侵害行為認知群、全国13%に対し本校9%、非承認群、全国18%に対し本校13%であった。	A	・学校が楽しいと感じている生徒が95%もいるという事がとても素晴らしい。 ・学校生活が楽しいと言って学校生活が送れている。	生徒指導主事
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形成」	○健康や体力の向上に力を入れている生徒が90%以上 ○毎日朝食を食べて登校する生徒が100%を目指す。	・学習や生活に関するアンケートを実施し実態把握に努める。また、それを基にした指導を行う。 ・保健の授業で心と体について理解を図るとともに、保健日より基本的な生活習慣の確立が大事であることを生徒、保護者に啓発していく。	B	・生徒の1日の生活の様子を把握するために、保護者を通して睡眠時間、テレビやパソコン等のメディアの使用時間、朝食、歯磨きについてアンケートを行った。また、健康に関する意識調査を生徒に対して実施した。運動や食事をしっかりとることの大切さについて高い意識をもって生活することができている。	A	・講話や保健日より通して規則正しい生活を送ることの大切さや心と体について定期的に生徒に伝えることができた。 ・健康や体力の向上に力を入れている生徒95% ・毎日朝食を食べて登校している生徒95%	A	・生徒が心身ともに成長できる学校づくりに取り組んでいただけた。部活動等の成績に良く反映されている。	養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議資料の事前配布を行い、会議時間短縮に努める。 ・見直しをもった活動を促すため月行事、週案の提示を適切に行っていく。	B	・月行事、週案ともに翌月、次週の案にとどまらず、2週間、2ヶ月先の案を提示していくことで見直しをもって活動できるような環境づくりに努めた。	B	・月行事、週案ともに翌月、次週の案にとどまらず、2週間、2ヶ月先の案を提示していくことで見直しをもって活動できるような環境づくりに年間を通して取り組むことができた。 ・神埼中学校に勤めることは楽しく満足していると答えた職員96%	B	・働きやすい環境づくりは学校独自の取り組みは難しい部分もあると思うが、より良い環境づくりに取り組んでいただきたい。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○授業力の向上	○全教科でタブレットを活用した授業の実施	○全職員がタブレットを活用した授業に取り組む。	・タブレットを活用した授業づくりのための校内研修の実施や事例の紹介を行う。 ・職員間で情報交換を行い、職員の意識を高める。	C	・TeamsやFormsの使い方や活用方法についての校内研修を行った。また、その中で他校等での実践事例の紹介も行った。レポート作成やアンケート集約で活用した。一部の教科での活用にとどまっているので全教科での活用を推進したい。	B	・80%以上の職員がタブレットを活用した授業に取り組んだ。また、電子黒板、タブレットを活用した授業はわかりやすいと答えた生徒は97%であった。	B	・通常の活動が制限されているなか、それぞれ工夫されて活動されていた。	学力向上対策コーディネーター
○進路指導の充実	◎夢や目標をもち、主体的に学び生き生きと活動する生徒の育成	○夢や目標の実現に向けて努力している生徒90%以上	・学活や総合的な学習の時間を通して、高校や職業についての調べ学習、講話を開催するなど、進路学習の充実を努める。	B	・県立高校や県内外の私立高校、自衛隊の方より来ていただいた説明会を実施した。各校の説明を聞くことで自分の進路について考えることができた。今後は1年生での職業調べ、2年生での高校調べを行っていく。	A	・1年生の職業人講話、2年生の先輩に学ぶは、コロナ禍もあり実施できなかった。1年生で職業調べ、2年生で高校調べを行った。 ・夢や目標の実現に向けて努力していると答えた生徒91%	A	・焦点化された指導がされており、その結果が進路に反映されている。	(主)進路指導主事 (副)各学年主任
○生徒会活動の活性化	○規範意識の向上	○「ルールを守ろう」と意識し、学校生活を送ることができる生徒80%以上	・生徒会が自律的に活動できる環境づくりと生徒集会等で積極的な情報発信に取り組む。 ・「出番・役割・承認」の場面を設定するなど、開発的生徒指導に取り組む。	B	・生徒会生活安全部を中心としてノーチャイムデーや授業開始5分前に着席、自習に取り組む「Let's5分前チャレンジ」などを実施することで時間を意識しての行動が高められた。「出番・役割・承認」の場面を設定し、開発的生徒指導に取り組む。	A	・「Let's5分前チャレンジ」の授業開始5分前に着席、自習に取り組む活動は時間に対する意識が高められ、年間を通して時間を意識して行動することができた。 ・「ルールを守ろう」と意識し、学校生活を送ることができていると答えた生徒99%	A	・生徒会の活動がとてはずばらしく、学校文化、伝統をきずいていっていると思います。	生徒指導主事 生徒会担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・全項目おおむね達成することができた。 ・学力向上では対話の場面を取り入れることで、12月の県調査で思考・判断・表現の正答率を県平均との比較で0.98(令和3年度0.97)を目指す。 ・業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については検討の必要がある。
--------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------